


小学校 第4学年 B 鑑賞（1）ア		実践校 海津市立今尾小学校 授業者 安田 陽子 実践時期 2学期 全2時間
題材名 アートカードクイズ		

つながりを生かす

- 「ひと」：美術鑑賞を通して、ひとには共通する感覚があることに気付き、同じものを見てその感覚を伝え合う楽しさを知る。また、作品を深く鑑賞することで見出す「気付き」に、共感したり対立して論議したりすることで、人と人とのつながりを実感し、作品を観ることをさらに楽しむことができる。
- 「もの」：「アートカード」を利用することで、手軽に美術に触れ、仲間と共にクイズを作ったり出し合ったりする中で、美術作品を身近に感じることができる。
- 「ちから」：美術鑑賞の授業を通して、それがどんな作品なのかを理解すると同時に、仲間との交流を手掛かりにして作品から受ける感覚を知り、感動を体験し、「鑑賞」する力をつけることができる。

題材の流れ

第1時 アートカードとの出会い

◎ねらい

アートカードに興味をもち、仲間分けを通して、モチーフや素材・色・表現された形などの共通点や相違点に気付くことができる。

- ・指導者は、美術作品をカードにした「アートカード」で学習することを伝え、学習班に30～40枚ずつ配布する。
  - ・学習班で話し合いながらカードを5つ程度に仲間分けをさせ、チーム名をつける。
  - ・班ごとに、チーム名と選んだカード、同じチームにした根拠などを発表する。
- 質問をしたり、感想を伝えたりして、チーム分けの手掛かりの共通点や相違点に気づくことができる。

ポイント1

チーム名の例示で、「モチーフ」「色彩」などととも「笑える」「行ってみたい」など、心情を表すものも含めると、第2時のクイズに生かしやすくなる。



これどうしよう。『人間』にお面って入る？  
違うんじゃない？入れたいんなら『顔』とか。  
怖い顔！笑える顔！

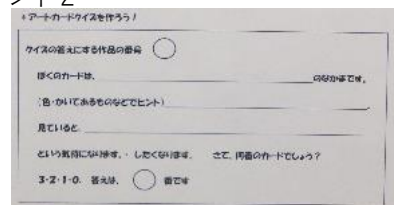
第2時 アートカードクイズ大会

◎ねらい

アートカードクイズ作りとクイズ大会を通して、作品に表現されていることや、作品から受ける感情に気付き、仲間との交流の中で、より深く作品を観る楽しさを知ることができる。

- ・班の中で一人ずつクイズを出し、ローテーションしながら他の班のクイズに答えていく。
- ・「なるほど賞」「難問で賞」「面白かったで賞」などで認める。
- ・一番気に入った作品について詳しく感想を書き、振り返る。

ポイント2



最終ヒントを「見ていると～という気持ちになる。」とすることで、作品から受ける情緒的な部分を味わうとともに、共感する体験をもつ。



『おこってる』だから、こっちな。

作品例（鑑賞カード）

\*アートカードクイズを作ろう！

クイズの答えにする作品の番号 ⑬

ほかのカードは、風（たいチム）(海外) のなかまで。

(色・かいてあるものなどでヒント) きれいなけしきで

見ていると、おもしろくおもしろく気持ちになります。

どう気持ちになります。・しにくいです。 さて、何番のカードでしょう？

3・2・1・0. 答えは、⑬番です

授業を終えて

仲間の言葉に納得する児童の様子が見られ、仲間とともに同じ作品を鑑賞する授業で、人と人とのつながりを体験できた。アートカードという手軽な素材で観る力が深まる授業ができた。